

—平成三十一年・令和元年を振り返って、印象に残ったことなどからお話し下さい。

「われわれエネルギー消費機器に関わる企業として、常に省エネルギーやCO<sub>2</sub>削減に取り組んでまいりましたが、ますます地球温暖化対策が求められております。

温暖化の影響によるもの



かは定かではありませんが、日本においても異常気象とも言える台風通過や集中豪雨による被害が、各地で発生致しました。被害に遭われた皆様には、謹んでお見舞い申し上げます」

—地球温暖化問題に対する貴社の取り組みは…

「地球温暖化に関し、対策の一環として『フロン排出抑制法』が改定され、この四月より罰則の強化がなされます。

フロンなどの冷媒ガスを

# より一層温暖化対策に注力

新晃工業株式会社

執行役員技術本部長 佐藤 秀行氏

「近年、地球環境保護の観点からも、サーキュラーエコノミーが提唱され、製品の寿命や材料のリサイクルに関する要求も高まっております。

空調機はもとも製品寿命が長く、使用される材料もリサイクル可能なものが多い製品ではありますが、製品のみならず製造工程においても、廃棄物やエネルギー消費の削減をすすめることが必要との認識であります。

新晃工業は、空調機の外板にガルバリウム鋼板によるサンドイッチパネルや、主骨のSUS角パイプ化など、業界に先んじて採用してまいりましたが、昨年は、空調機の基本性能を左右する要素技術として、送風機と熱交換器を新たに開発・リリースいたしました。

送風機は、二次元的に捻りを加えた新しい翼形状を採用し、高効率化および小型化を実現いたしました。熱交換器においては、スリット形状による熱交換効率の変化に着目し、フィン形状を一から見直した新

—新しい年、令和二年の取り組み等について、ご紹介下さい。

型フィンで、効率を向上させることができました。これらの送風機および熱交換器の開発には、構造解析や流体解析などの数値解析を多用し、各百パターンの前後の形状案をシミュレーションすることによって、実機の製作を最小限にすつ、最適形状を決定する手法を採用致しました。

—では、新年の抱負をお聞かせ下さい。

「今後もさらなる製品の効率化に関する研究開発を推し進め、『人に対して居心地がよく、物に対して最も適した空間』を少ないエネルギーで維持できるように空調機器の開発に努めてまいります」

トッピン